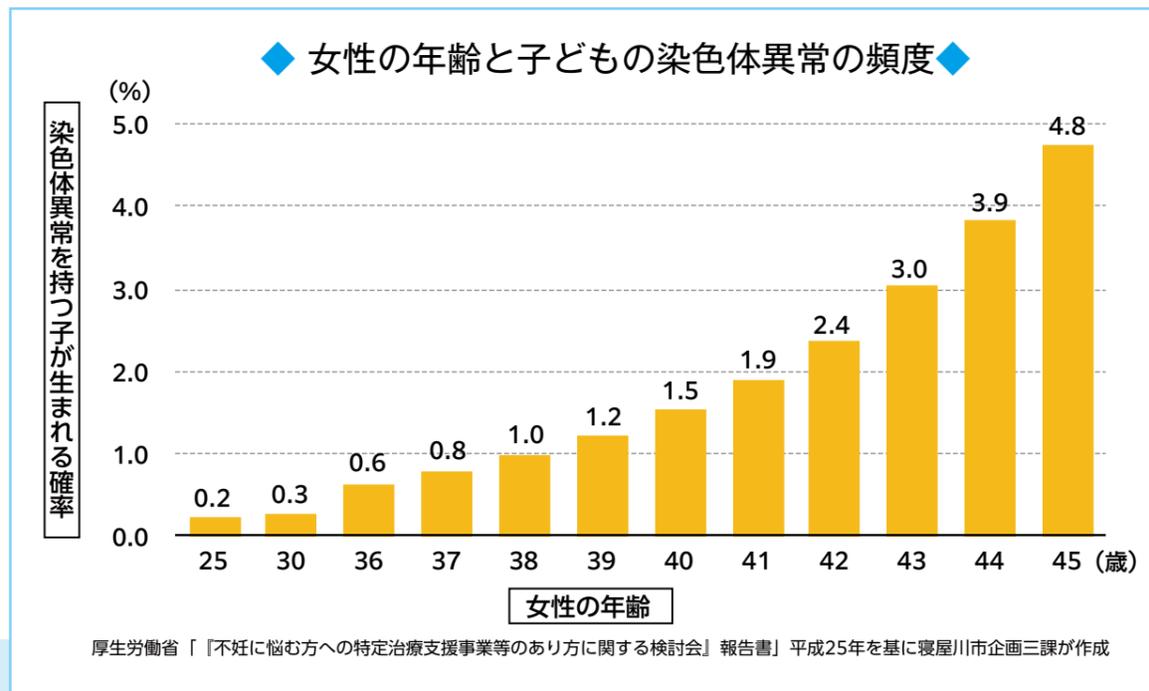


妊娠率の低下は、卵子と精子の質の低下の影響が大きいと言われています。

卵子の「老化」による質の低下

女性は35歳以上になると妊娠率の下げ幅が大きくなりますが、その主な原因は「卵子の質の低下」です。なぜ卵子は老化するのか、それは卵子が生まれた時からずっと体の中にあり、年齢と共に年をとるからです。そのメカニズムは明らかでなく、現状は残念ながらその予防法もありません。



上のグラフは、女性の年齢と子どもの染色体異常の頻度を表したものです。

女性の加齢に伴って、卵子の基になる細胞（卵母細胞）も老化し、それにより染色体の数に異常が起きやすくなると考えられています。受精卵に染色体異常がある場合は、うまく妊娠しなかったり、流産のリスクになったりすると考えられています。

正しく知るべきこと!



- 妊娠する力は、特に35歳頃以降から大きく下がり、1歳の差でも変わります。
- 卵子も年齢と共に年をとり、質の低下を伴いますが、そのメカニズムについては明らかでなく、現状、予防法はありません。

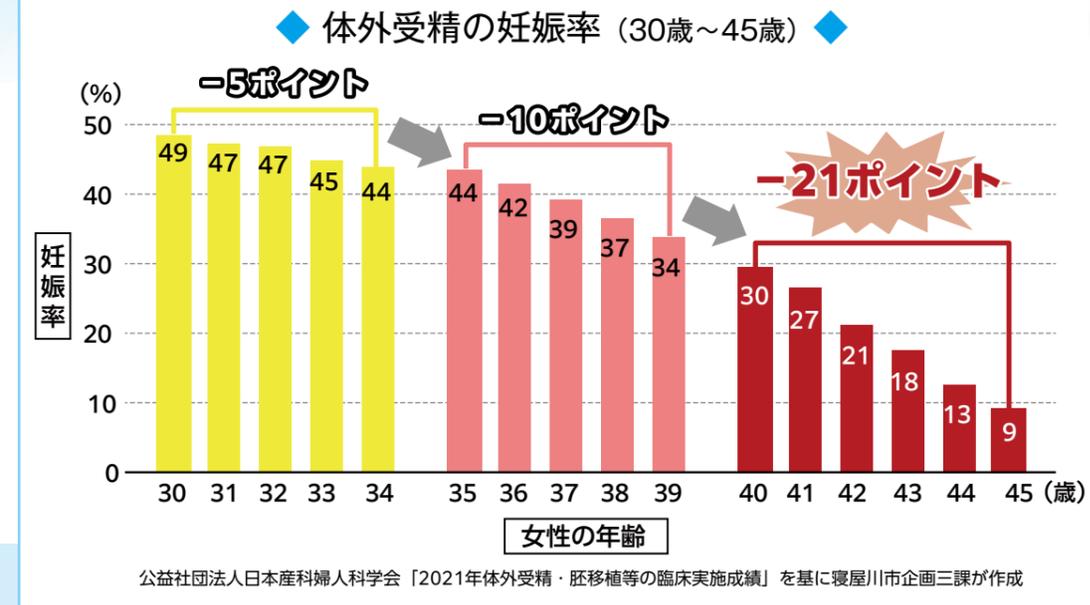
特集1

将来、子どもを持ちたいと 考えている皆さんへ

卵子と精子の「老化」のお話

不妊治療に取り組む理由の1つとして、加齢と共に卵子・精子などを形成する生殖細胞の機能が低下する、卵子と精子の「老化」の問題があります。

今回の特集では、将来、子どもを持ちたいと考えている皆さんが、卵子と精子の「老化」を正しく知り、そのタイミングについて考える機会を提供します。



年齢と妊娠率

上のグラフは、令和3年の体外受精での年齢別の妊娠率について、30歳~45歳を抜粋し、まとめたものです。

30歳~34歳の下げ幅マイナス5ポイントに対し、35歳~39歳はマイナス10ポイントと下げ幅が大きくなり、更に40歳~45歳はマイナス21ポイントとなっています。特に41歳から42歳にかけては、6ポイント下がっています。

自然妊娠の場合も、同様の傾向です。

これはあくまで「妊娠率」であり、「出産率」ではありません。年齢と共に流産率が上昇するため（45歳では60%ぐらいは流産となります）、実際に出産する人はもっと少なくなります。

福原 慎一郎 招聘准教授
 瀧内 剛 特任准教授

※いずれも生殖医療専門医

「卵子と精子の「老化」を防ぐ方法はありませんか。」
 福原 「老化」なので「若返る」方法はありません。強いて言うなら、肥満対策や過度な喫煙防止など健康的な生活を送ることに気をつければ、「悪化」を防ぐことにはなるでしょう。

卵子と精子の「老化」を防ぐ方法は無い

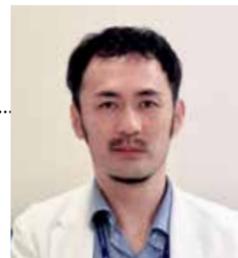


福原 慎一郎
 招聘准教授
 (現JCHO大阪病院診療部長)
 器官制御外科学講座 (泌尿器科学)

「不妊治療患者の最近の傾向はどうですか。」
 瀧内 晩婚化の影響もあり、高齢化していると感じます。日本で体外受精など生殖補助医療(自然妊娠に対してARTとも呼ばれます)を受けている年齢は39歳前後が最も多いのですが、これは世界的に見ても高いです。

「将来子どもを欲しいと思っている人が、卵子と精子の「老化」を正しく知ることについて、どう思われますか。」
 瀧内 年齢が上がると、不妊治療をしても出産に至るのが難しくなっています。例えば45歳で不妊治療を100回行っても、数回しか出産に至らないのです。その現実を若いうちから知っておくべきだと思います。

高齢の場合は出産に至るのが難しい現実を知っておくことが重要



瀧内 剛
 特任准教授
 先端ゲノム医療学共同研究講座

「妊娠」「出産」に対する不安は社会全体でサポートを

「高齢になると出産しにくい」ということは、多くの方が知っていると思うのですが。
 瀧内 加齢と共に妊娠率・出産率が下がり、流産率が上がっていることは、今やかなり周知されていると感じます。その一方で、いまだに「体外受精を行えば30歳代になっても容易に妊娠・出産は可能」と思っている人に良く出会います。年齢による影響は重要なのです。
 福原 若い人たちが妊娠・出産することについて何か不安があるなら、それを解消したり、応援やサポートをしたりすることが、社会全体に求められているのだと思います。

精子の「老化」による質の低下

精子は男性の精巣で生涯を通じて作られますが、加齢と共に、精巣の大きさも少しずつ小さくなり、男性ホルモンをつくる力も緩やかに低下すると言われています。

また近年では、精巣の老化が精子の受精率低下と受精卵の発生率低下を独立して引き起こし、妊よう性※の低下に至ったという研究や、精子の老化が子どもの神経発達障害に与える遺伝子上の影響についての研究など、これまで知ることが難しいと言われてきた精子の「老化」による質の低下について**研究が進められています。**

※妊よう性とは…妊娠し、子どもを授かるために必要な能力。女性と男性のどちらにも関係します。

30歳代と50歳代の精子の比較

※30歳代を100%とした50歳代の状況 (%)

量	78~97
運動率	63~97
正常形態率	82~96

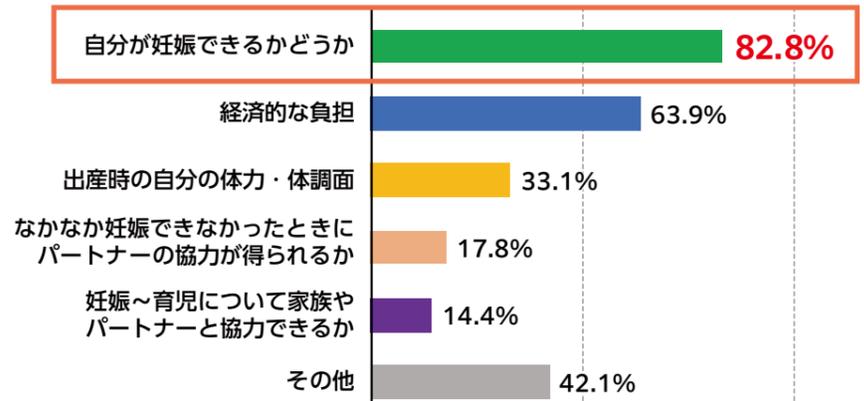
一般社団法人日本生殖医学会「生殖医療Q&A よくあるご質問 Q25. 男性の加齢は不妊症・流産にどんな影響を与えるのですか?」
http://www.jsrm.or.jp/public/funinsho_qa25.html を基に寝屋川市企画三課が作成

正しく知るべきこと!



精子の「老化」による質の低下が、妊よう性の低下や神経系に関わる遺伝子へ及ぼす影響などについては**現在研究が進められています。**

子どもを持つことを想定した際、不安なことは何ですか? (複数回答)



株式会社エムティーアイ「ルナルナ×大阪府 大阪府女性の妊娠・不妊に関する意識調査」2017年を基に寝屋川市企画三課が作成

そして、上の図のとおり、そのうち8割以上が不安の内容として「自分が妊娠できるかどうか」を挙げています。卵子と精子の「老化」について正しく知っておけば、将来、子どもを持つに当たって、そのタイミングを考える際の参考とすることができます。



あらかじめ「老化」を知っておく

平成29年に大阪府が民間事業者と連携して行ったアンケートによると、「将来子どもを持つことに不安なことがある」と答えた女性は、全体の8割以上いたという調査結果があります。

子どもを持ちたいと望む皆さんへ

皆さんの気持ちに応えます！4月からスタートした
不妊治療の助成制度、使ってみませんか？

ココが
ポイント！

1 対象を生殖補助医療に集中！

市の助成制度は、一般不妊治療よりも高度な治療、高額な費用負担が必要となる「生殖補助医療」をターゲットにしています。

「産みたい」気持ちをサポートします！

2 府内トップクラスの助成額！

1年度当たり上限10万円の助成額。これは類似のサービスを行う府内市町村でも、トップクラスの金額となっています。

高額な費用負担で治療をためらうことがないように！



より高額な費用



Q 対象となる治療や申請できる要件について教えてください。

A 保険算定の対象となる生殖補助医療が助成の対象となります。また、主な申請要件は、夫婦ともに市に住民登録があることや、治療開始時点での妻の年齢が43歳未満であることなどです。詳しくは、市ホームページをご覧ください。

Q 寝屋川市へ転入する前に行った生殖補助医療は対象になりますか？

A 申請日において、寝屋川市に住民登録があることを要件としていますので、転入前に行った生殖補助医療も対象となります。ただし、他の自治体で助成を受けたものは対象外です。

よくある問合せ

Q & A



問 記事全般…企画三課 (☎813・1146)
助成制度…市民サービス部医療助成担当 (☎812・2363)

助成制度の詳細い
内容についてはコチラ

